

配食サービス事業

本町では、高齢者が住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らせるように、お弁当の配達時に見守り・安否確認を行う「配食サービス事業」を実施しています。

利用できる方は、おおむね65歳以上で、疾病等の理由により見守りが必要な一人暮らしの高齢者、または高齢者のみの世帯の方です。

今月は配食サービス事業を利用している前澤勗さん（87歳）のお宅を訪問しました。

前澤さんは、昭和53年から41年間、ずっとここ（東2北2）で暮らしています。3年前に妻の鈴子さんを亡くしてからは一人暮らし。長男の毅さんは岩手県盛岡市、長女のしのぶさんは千葉県、次女の三恵さんは東京都でそれぞれ暮らしています。

住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らせるように。



まえざわ・つとむ  
前澤 勗さん（87歳）

昭和8年5月11日栃木県生まれ  
●昭和31年、小樽商科大学卒業後、竹栄株へ入社。昭和37年、結婚を機に白糠町へ転入、転職し株共栄商店へ入社。釧路支店の店長などを務め、平成7年定年退職。趣味は囲碁、カラオケ

奥さんがご健在の頃は、自分で調理をしたことがなかったという前澤さん。今は、朝食と昼食を自分で用意し、夕食に配食サービス事業を活用しています。

「大したもののは作れませんが、朝は魚を焼いたり、煮つけにしたりして食べています。後は納豆や味噌汁ですね。昼はパンを焼いて食べています。それに刻んだ野菜を買ってきて、生ハムをまいて食べています」

配食サービス事業を利用することになったのは、前澤さんの一人暮らしを心配した方からの声かけでした。

「友人が『配食サービスという制度があるから使ってみたら』と、



お弁当は保温容器に入っており、時間がたっても温かい料理を食べることができます。